

2020年度 事業報告書

社会福祉法人 NHK厚生文化事業団

NHK厚生文化事業団 2020年度事業報告

新型コロナウイルスの感染拡大の中、事業団は2020年に創立60周年を迎えました。感染防止対策と60周年記念事業など業務の遂行に例年と違った事業運営を求められ、苦闘した1年となりました。

時代とともに変化し多様化する福祉へのニーズに応えるため、「発達障害」や「摂食障害」などをテーマにしたフォーラムをオンラインで開きました。また、創立60周年を迎えたのを記念して、「誰も取り残さない社会」を認知症介護と発達障害から考える大型フォーラムを実施しました。認知症については、フォーラムのほかに、2017年度に新設した募集事業「認知症とともに生きるまち大賞」を継続し、間近に迫る認知症700万人時代への共生の取り組みを支援しました。

東日本大震災から10年になる3月にNHK主催の「震災と未来展」と連動して「インクルーシブ防災」をテーマにフォーラムを実施し、障害者や高齢者も取り残すことなく災害から守るためになすべきことを考えました。

2021年に予定されているパラリンピック東京大会に向けて、パラスポーツ（障害者スポーツ）への理解を促進する事業に力を入れました。パラリンピック選手を小学校に派遣して子どもたちと交流するイベントを継続したほか、パラスポーツ・イベントに事業団賞を贈呈しました。

コロナ禍で授業やイベントがオンラインになる中、NHK福祉番組や事業団制作のDVD教材などの福祉情報を届ける「福祉ビデオライブラリー」では、学校やイベント主催者からの様々な需要に応えました。

東日本大震災をはじめとする災害被災地を支援する取り組みとして、「わかば基金」の「災害復興支援部門」で、激甚災害指定を受けた被災地の福祉活動を資金面から支援しました。

事業団創立60周年の記念事業として、長年「NHK障害福祉賞」の選考委員を続けている作家の柳田邦男さんと受賞者の交流を映像で記録し、NHKの特集番組として放送されました。また、福祉の未来を有識者の提言などから展望する記念誌を作成するなど、NHKの社会貢献を担う団体の意義をアピールしました。

○最新の福祉課題に正面から取り組み、理解促進と支援を促す

DVD教材「ひとりも取り残さないために～インクルーシブ防災～」の一部を盛り込んだフォーラムの他、「発達障害」や「共生社会」などのフォーラムをオンラインで実施しました。認知症については、4回目となる「認知症とともに生きるまち大賞」を実施して全国各地の取り組みを選考して表彰し、共生社会に向けての活動を後押ししました。

○事業団ならではの募集事業や公開イベントを放送と連携して行い、多様なスタイルで福祉情報を発信していく

「障害福祉賞」、公開イベント「ハートネットTV 出張！ハートネット やさしいまちのレシピ」、フォーラム「障害者アート」を番組と連動して実施し、障害者・高齢者福祉に資する情報を発信しました。

○パラリンピック関連イベントを継続して実施

「交流教室 パラリンピアンがやってきた！」に加え、渋谷区主催のボッチャ大会に、事業団賞と参加者への記念品を贈呈し、障害者への理解促進とパラスポーツ支援に努めました。

○きめ細かい福祉情報の提供

「福祉ビデオライブラリー」では、「摂食障害 理解と回復のために」「優しい認知症ケア ユマニチュード」「“ひきこもり”からの回復」「大人の自閉症スペクトラム」など、事業団制作教材の貸出数が上位を占めました。またホームページやメールマガジン、フェイスブックでイベントの告知やイベントの実施内容をわかりやすく発信して、事業のPRと共に、参加できなかった人たちへ情報を届けることにも努めました。

○全国の福祉現場や災害被災地を支援

「わかば基金」による全国の福祉施設や災害被災地への援助、「製品販売会」による東日本大震災被災地の福祉施設への支援などを行いました。

○内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底等

外部の専門団体との間で顧問契約を結び、適正経理、法務、労務・安全管理、情報セキュリティ等の重点リスクについて逐次助言を得て、業務を進めました。

毎月の「働き方総点検」で、時間外や勤労休暇取得日数、業務量のバランスなどを把握し、適正な勤務管理に努めました。

目 次

1. 障害者福祉事業	2
2. 高齢者福祉事業	7
3. 東日本大震災などの被災地を支援する事業	10
4. 福祉情報の提供事業	11
5. チャリティー事業	14
6. その他の支援事業	15
7. 広報活動	20
8. 内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底等	22
9. 後援・協賛した事業	23
10. 寄付金	24
11. 賛助会員・維持会員等	25
12. 役員	27
13. 2020年度末従業員数	27
〈資料〉・事業概要一覧	

1. 障害者福祉事業

(1) こどもの発達相談会および療育キャンプ

○こどもの発達相談会

大阪、名古屋、福岡において、ことばや発達の遅れた子どもとその親の相談会を10回実施した。コロナ対策を施した対面の他、オンラインや電話で実施した。知的や言語の発達の遅れ、自閉スペクトラム症（ASD）や学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などの子どもの相談が多かった。

大阪	4回	相談件数	151件
名古屋	3回	相談件数	36件
福岡	3回	相談件数	5件

○親と子の療育キャンプ

8月8日に愛知県犬山市で実施予定だった「やまびこdayキャンプ」は中止した。

(2) 肢体不自由児・者の療育活動

予定していた「高木記念山中キャンプ」（山梨県山中湖村）、「雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ」（新潟県南魚沼市）は中止した。

「フレンドシップ・キャンプ」は、日帰りバス旅行に変更して実施した。

参加者

24人

(3) NHKハートフォーラム（発達障害）**オンライン**

自閉スペクトラム症（ASD）、学習障害（LD）、注意欠如・多動症（ADHD）などの発達障害について、地元の「親の会」や「支援団体」、NHK地域放送局などと共催し、NHKハートフォーラムとして4回開催した。

2020年度は、「子ども」「成人期」「恋愛や性」「女性」をテーマに取り上げた。

参加者

9月 6日	東京・港区「子どもの発達障害 ～コロナ禍で見えてきた‘悩み’を共有する」	700人
12月12日	大分市「発達障害者の成人期の暮らしに備える ～自分らしく生きるために～」	153人
12月19日	長崎市「発達障害のライフスキルについて考える ～恋愛や性の問題を中心に～」	256人
(2021年)		
2月11日	名古屋市「女性を取り巻く発達障害」	394人

合計：1,503人

(4) NHKハートフォーラム (摂食障害) **オンライン**

医療機関を受診していない人を含めると数十万人いるといわれる摂食障害。コロナ禍で自宅にいる時間が長くなり、過食や拒食が悪化したという当事者の声を受け、専門家や摂食障害当事者が、参加者の質問に答えるフォーラムを実施した。

6月21日 東京・千代田区 「摂食障害 理解と回復のために」

参加者
157人

(5) NHKハートフォーラム (HSP) **オンライン**

生まれつき感受性が強く敏感な気質を持った人＝HSP (Highly Sensitive Person) は生きにくさを感じながらも精神疾患とされず医療的ケアを受けられないという悩みを持っている。その悩みに医師や心理士が答えるフォーラムを実施した。

(2021年)

2月23日 大阪市 「HSP ～ひといちばい繊細な人～
自分のためのトリセツ」

参加者
802人

(6) NHKハートフォーラム (障害者アート) **オンライン**

「テンションがあがる」「地域の活力があがる」「企業価値があがる」アートを、“あがるアート”と名付け、こうした“あがるアート”で人や地域をもっと元気にするアイデアを、アーティストを輩出する福祉事業所の代表や医療施設のアートディレクターらと話し合うフォーラムをNHKハートネットTVと連動して実施した。

12月6日 東京・渋谷区 「“あがるアート”で世界を変えちゃおう」
*NHKの放送 2021年 1月5日、6日 ハートネットTV

参加者
233人

(7) フォーラム「がんと生きる～こころとからだ 私らしく～」 **オンライン**

高齢化の進展によって2人に1人ががんを抱え、3人に1人ががんによって死を迎える。がん医療が進歩する中、完治を目指す治療の一方で、痛みをできるだけ減らしていく緩和ケアが始まっている。医療従事者や当事者の対話を通して、最新の医療情報と本人に寄り添う支援のありようについて考えた。

9月5日 東京・江東区
10月17日 長野市
(2021年)
1月17日 横浜市

参加者
576人
540人
950人

合計：2,066人

*NHKの放送 2021年 4月17日 TVシンポジウムで放送 (1月17日分)

(8) NHKハートフォーラム (インクルーシブ防災) **オンライン**

福祉防災学の専門家、障害当事者、防災の先進自治体の担当者らをパネリストに、インクルーシブ防災を実現するためには何が必要かを、事業団制作の福祉DVDの映像を交えながら考えた。「手話」と「ナマ字幕」も加えて配信し、オンライン参加者からの質問にも答えた。

(2021年)
3月 6日 東京・江東区

参加者
350人

(9) NHKハートフォーラム (共生社会創造) **オンライン**

コロナ禍で「ソーシャルディスタンス」や「外出自粛」などを迫られ、あたりまえの日常を奪われ生きづらさを抱えるマイノリティーの人々の声をあぶり出し、コロナ禍の日本の福祉や共生社会実現を考えた。ナマ字幕を付けてオンライン配信した。

10月10日 東京・渋谷区 「共生社会創造 ‘ぶっちゃけトーク’
“新しい生活”に福祉の視点、足りてる？」 参加者 193人

(10) ハートカフェ@たによん

気軽に参加できる小規模講演会と、その講師が参加者と話し合う時間を多く設ける双方向性のあるフォーラムを実施した。

10月17日 大阪市 「ウィズコロナ時代のこころの健康法」 参加者 21人

(11) 障害者スポーツイベント

○交流教室 パラリンピアンがやってきた！

パラリンピック選手が小学校を訪問し、子どもたちとパラスポーツを楽しみ交流する「パラリンピアンがやってきた！」を4回実施。コロナ禍で学校行事が減っているため、どの学校でも大変喜ばれた。

			参加者
10月22日	東京・中野区立江原小学校	「ブラインドサッカー」	70人
11月 6日	東京・足立区立寺地小学校	「車いすバスケットボール」	115人
11月19日	東京・八王子立船田小学校	「陸上」	128人
12月 3日	東京・葛飾区立末広小学校	「車いすラグビー」	107人

合計：420人

○第54回スポーツの集い **オンライン**

知的障害のある人のスポーツ競技会。重度の障害者が参加できる全国でも数少ないスポーツ大会。今回はコロナ禍により選手はそれぞれの施設からオンラインで参加。競技は行わず、体操とバンド演奏によるダンスを楽しんだ。

12月 2日 東京・調布市 武蔵野の森 総合スポーツプラザ (18施設) 参加者 389人

○パラスポーツ大会に事業団賞と参加者への記念品を贈呈

パラリンピック東京大会に向けパラスポーツへの理解と関心を高めるために、渋谷区主催のパラスポーツ大会に事業団賞と参加者への記念品を提供した。予定していた3回のうち、「渋谷区長杯車いすラグビー大会」と、「渋谷区長杯パラ・バドミントン大会」はコロナ禍で中止となりオンライン・トーク・イベントに変更。オンライン視聴者に記念品としてエコ・バッグを贈呈した。

(2021年)

3月 7日 第1回ボッチャ渋谷カップ (渋谷区スポーツセンター)

敢闘賞のグループに事業団賞の盾を、参加選手全員にオリジナル・タンブラーを贈呈した。

(12) 障害者や福祉への理解を促す事業

○福祉施設の手づくり製品や菓子の販売会

事業団とNHK共済会が2011年度より共同で実施している「福祉施設で作られたお菓子などの販売会」を、東京のNHK放送センターで4回開催した。

12月の障害者週間に実施した回は、「手づくりの心届けます市」と称して渋谷区内8団体の製品を展示販売。3月は、東日本大震災被災地支援として福島県内の事業所が作った製品の販売を行った。

○福祉の仕事に就く若い人たちに向けたフォーラム

名古屋で、愛知県社会福祉協議会、NHK名古屋放送局、中日新聞社との共催で、福祉を担う若手や中堅職員が本音で語り合える場を設け、福祉現場の現状と魅力を伝えるフォーラムを開催した。

11月28日 名古屋市 「福祉の星フォーラム」 オンライン

参加者
101人

(13) 第55回NHK障害福祉賞

障害のある人の体験記録や、福祉関係者、家族などの実践記録を広く社会に伝える「障害福祉賞」には過去最多の484編の応募があり、選考の結果、次の実践記録が入選した。

第1部門： 障害のある本人の部門

第2部門： 障害のある人とともに歩んでいる人の部門

応募数： 484編 (第1部門：326編、第2部門：158編)

(入選作)

最優秀 「有難う」 小林 順子 (神奈川県)

優秀 (第1部門) 「扉の向こう側で」 近藤 彩 (秋田県)
「一ねんせいはたいへんです」 山田 永菜 (岩手県)

(第2部門) 「ひとりごと
～高次脳なオットとコロナと今を生きる」 白井 京子 (大阪府)
「私だから出来る事 私しか伝えられない事
妹と私の共存4年目」 山田 結心 (岩手県)

矢野賞 「ある身体障害者の身の上話」 西 泰然 (佐賀県)

佳作 5 編

入選作品は「第55回障害福祉賞入選作品集」として広く頒布したほか、朗読による音声版（テープ、デジタル録音）、点字版の入選集を作成し、全国の点字図書館や視覚障害の応募者などに提供した。贈呈式は12月9日にNHK放送センターと受賞者をオンラインでつないで行った。また入選作品や受賞者の思いを、12月14日、17日「ラジオ深夜便」（ラジオ第1）、2021年5月3日、4日の「ハートネット TV」（Eテレ）で紹介した。

○事業団創立60周年記念事業として、長年、障害福祉賞の選考委員を続けている作家の柳田邦男さんと受賞者との交流を映像で記録する企画「柳田邦男と障害福祉賞」を実施した。この映像記録は、NHKの特集番組で放送された。

***NHKの放送**

2021年 1月24日 「文字の獲得は光の獲得でした
～作家 柳田邦男が読む いのちの手記」

(14) NHKハート展

○第25回ハート展

25回目の「NHKハート展」には、障害のある人が綴った詩3,419編が寄せられ、その中から選考の結果50編の詩を入選とした。

それぞれの想いがこもった50編の作品は、2020年8月13日から9月6日まで東急Bunkamuraギャラリーでの東京展をはじめ、2020年度中に、札幌市、福岡市、奈良市、八戸市など全国8か所の巡回展で紹介した。

入場者は7,531人。放送では作品の紹介や作詩者へのインタビューを、Eテレの「ハートネットTV」などで取り上げた。

○巡回展 会場・入場者数 (8会場)

	会 期	会 場	入場者数
東京・渋谷区	2020年 8月13日(木)～9月6日(日)	Bunkamuraギャラリー	1,129人
札幌市	12月9日(水)～12月14日(月)	札幌市民交流プラザ1階 スカーツモール	926人
福岡市	2021年 1月15日(金)～1月24日(日)	天神地下街一番街 イベントコーナー	246人
岡山県 倉敷市	1月27日(水)～2月4日(木)	アリオ倉敷2階 フードコート特設会場	1,257人
愛知県 日進市	2月6日(土)～2月14日(日)	プライムツリー赤池2階 催事スペース	1,697人
奈良市	2月20日(土)～2月28日(日)	NHK奈良放送局	766人
青森県 八戸市	3月12日(金)～3月23日(火)	八戸ポータルミュージアム はっち (青森県)	1,024人
愛媛県 松前町	3月26日(金)～3月31日(水)	エミフルMASAKI	486人

合計 7,531人 (1会場平均 941人)

2. 高齢者福祉事業

(1) 「ハートネットTV 出張!ハートネット やさしいまちのレシピ」

老いをいきいきと過ごすためのヒントや、健康長寿の秘訣、誰もが暮らしやすい社会を作るためのノウハウを伝える番組「やさしいまちのレシピ」の公開収録(Eテレで放送)とゲストのものまねタレント＝コロケさんによる講演を開催した。

年度当初は全国3か所で実施する予定だったが、コロナ禍で2回が中止となった。

*公開収録番組では、事業団主催事業「認知症にやさしいまち大賞」を受賞したグループの取り組みを中心に構成した。

(2021年)

2月21日 東京・町田市 町田市民会館

参加者

279人

*NHKの放送 3月16日 Eテレ「ハートネットTV」

(2) 認知症のフォーラム

NHKや各種団体と協力して認知症のフォーラムを7回実施し、認知症の当事者やその家族、医療、介護従事者など3,329人が参加した。

○NHKハートフォーラム(認知症) オンライン

コロナ禍での医療・介護の最新情報や望ましいあり方、地域での支援体制の課題について話し合い、参加者の質問に答えた。

「コロナの時代に認知症を考える」では、コロナ禍で認知症カフェが開催できなくなったことからオンラインでカフェの開催を始めた団体の取り組みを紹介した。

「認知症の知識と介護の心得」では、医師による認知症ケアの基調講演の後、コロナ禍で不安を抱える家族からの質問に答えた。

参加者

8月30日 東京・新宿区 「コロナの時代に認知症を考える」

313人

10月11日 大阪市 「認知症の知識と介護の心得

～本人も家族も明るく生きるために～」

238人

12月13日 東京・中央区 「認知症とともに生きるまち大賞フォーラム」

198人

(2021年)

2月27日 福岡市 「コロナ禍における認知症とともに

安心して生きるためのアプローチと在宅医療」 186人

合計: 935人

○フォーラム「超高齢社会を生きる

～認知症の人の思いから始めるまちづくり～ オンライン

認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには何が必要なのか、そのための情報やサポートについて、当事者、医療関係者、地域の福祉担当者らとともに話し合い啓発につとめた。

11月 7日 金沢市
(2021年)

参加者
504人

3月14日 東京・渋谷区

916人

合計：1,420人

○フォーラム認知症新時代 「いきいきと暮らすために」 **オンライン**

医療・介護の最新情報と、認知症の人と家族を支援する地域の先進的な取り組みを紹介して当事者、家族、医師、地域の人々が語り合い、地域支援の輪が広がるように努めた。

参加者

12月 6日 大阪市

974人

* NHKの放送

2021年 2月13日 Eテレ 全国「TVシンポジウム」

○認知症に関するパンフレットの配布

冊子「もの忘れが気になるあなたへ」(19年度作成・23万部刷成)と、冊子「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術」(20年度作成・16万部刷成)、あわせて1,614部をフォーラムの参加者や希望者に配布した。

(3) NHKハートフォーラム (SDGs) **オンライン**

国連が2030年までの目標達成を定めた持続可能な開発目標＝SDGsの中から、「認知症」と「発達障害」をテーマに、有識者、専門家、当事者らによるクロストークから誰ひとり取り残さない社会実現のヒントを探った。

(2021年)

参加者

3月28日 東京・渋谷区

617人

(4) 第4回 認知症とともに生きるまち大賞

「認知症700万人時代」を目前に控え、認知症の人たちと共に安心して暮らしていくための多様な取り組みの喚起をねらいに、全国から活動事例をを募集し、それを専門家、有識者によって選考し表彰した。

応募は26件。その中から本賞・ニューウェーブ賞併せて6件を表彰した。

表彰式は、授賞団体の活動紹介と記念シンポジウムと合わせてオンラインで実施した。

<受賞団体>

本賞 ○ファーム・エイド東五反田 (東京・品川区)
○「ヒゲ2」とその仲間たち (神奈川県鎌倉市)
○マスターズCafe (大阪府阪南市)

ニューウェーブ賞

○Dトイレプロジェクト

(東京・町田市)

○borderless -with dementia-

(名古屋市)

○高鍋町社会福祉協議会

(宮崎県高鍋町)

参加者

12月13日 東京・中央区 表彰式

198人

*NHKハートフォーラム(認知症)の項 参照

3. 東日本大震災などの被災地を支援する事業

(1) “明日へ”のテーマ曲「花は咲く」の著作権料による義援金など

東日本大震災から10年となる2020年度、NHK東日本大震災プロジェクトの復興支援ソング「花は咲く」の楽曲著作権料1,176万円を義援金として被災地へ送った。

また、東日本大震災で被災した福島県内の福祉作業所が作った菓子や名産品の販売会を3月19日に東京の放送センターで行った。

(2) 「わかば基金」による支援

「わかば基金」災害復興支援部門で、被災地の4団体に支援を行った。

*詳しくは「わかば基金」災害復興支援部門の項 参照。

4. 福祉情報の提供事業

(1) 福祉ライブラリー活動

「福祉ライブラリー」はNHKの福祉番組をDVDに複製して貸し出すもので、事業団創立以来の基幹事業の一つである。ラインナップも多様で教育や福祉の現場で活用されている。コロナ禍で授業やイベントがオンラインになる中、学校やイベント主催者から様々な需要が寄せられ、これに応えた。

○福祉ビデオライブラリー

2020年度に新しくライブラリー化した番組は32。「ハートネットTV」などテレビの福祉番組や、「ETV特集」「クローズアップ現代+」など視聴者から反響の大きかった番組、福祉の学習に役立つ番組をDVDに複製した。また、事業団が制作した福祉DVD教材もライブラリーに加えた。

年間の貸出利用は2,955本。おもな利用者は、福祉関係の大学・専門学校や、福祉の現場で働く人、障害児の親や障害者本人、介護に携わっている家族、ボランティア団体などである。

利用者が特に多かったソフトは、事業団制作の福祉DVD「優しい認知症ケア ユマニチュード」（231本）。つづいて「摂食障害 理解と回復のために」（90本）。「ひきこもりからの回復」（60本）、「新しい絆の作り方 特別養子縁組・里親入門」（50本）、「大人の自閉症スペクトラム」（49本）で、いずれも事業団制作のDVDだった。

2020年度 複製番組数	ライブラリー保有番組数	年間利用数
32番組	636番組	2,955本(枚)

◎これまでの利用数累計：20万5,186本

○聴覚障害者向け字幕ビデオライブラリー

NHKの字幕放送の拡充にあわせ、聴覚障害者向けサービスとして2003年度から行っている。2020年度は、要望の多かったハートネットTV「手話で楽しむみんなのテレビ!」を中心に6本を字幕化した。

ライブラリーは通算111番組で、全国54の聴覚障害者関係施設と当事業団で貸し出しを行っている。

○視覚障害者のための音声ライブラリー

文芸作品や古典の名作を朗読したNHKの番組をデジタル録音のDAISYに複製して、全国47か所の委託施設で貸し出しを行っている。

2020年度はNHKの『ラジオ文芸館』から「一冊の本」（大島真寿美）「さるの湯」（高橋克彦）、『新日曜名作座』から「半七捕物帳」、『FMシアター』から、令和元年度文化庁芸術祭大賞を受賞した「エンディング・カット」などを複製した。

貸し出し利用は年間、3,700本あまりで、「新日曜名作座」、「ラジオ文芸館」の利用が多かった。

2020年度 複製作品数	年間利用本数
6番組 8作品	3,732本(枚)

◎これまでの利用数累計：199万4,379本

(2) 福祉DVD教材「ひとりも取り残さないために

～インクルーシブ防災～」の制作

2011年3月の東日本大震災では、亡くなった人の3分の2は60歳以上、障害のある人の死亡率は住民全体の2倍だった。この東日本大震災を受けて、災害弱者を取り残さない＝ひとりも取り残さない「インクルーシブ防災」が国連の防災世界会議で提唱された。東日本大震災から10年の節目に、配慮の必要な人をきちんと位置付けた防災・減災のヒントになるDVD教材を制作した。

福祉DVD教材（テキストつき）は2枚組で700セット制作し、全国の自治体、教育機関、福祉施設、病院、消防署などに配布し貸し出しを委託。併せて福祉ビデオライブラリーからも貸し出しを行う。

第1巻 「避難編」

第2巻 「避難生活編」

監修：立木茂雄（同志社大学社会学部 教授）

なお、本事業はJKAの補助金を得て実施した。

(3) 「認知症」などの冊子配布とホームページでの公開

○「もの忘れが気になるあなたへ」

（監修：小阪憲司 横浜市立大学名誉教授）

認知症はどんな病気か、治療法や予防法、相談窓口などを分かりやすくまとめたもので、発行数は23万部となった。2020年度は917部をフォーラムの参加者や希望者に無料で配布した。

○「家族が認知症と診断されたあなたへ～おすすめ介護術～」

（監修：須貝佑一 認知症介護研究・研修東京センター 研究部長）

認知症の介護のポイントを症状別に解説したもので、発行数は16万部。

2020年度は、697部を無料で配布した。

○「思春期のこころの病～“悩み”と“病”の見分け方～」

（監修：青木省三 川崎医科大学精神科学教室教授）

思春期特有の精神疾患の見分け方と対応について啓発する冊子をホームページで見られるようにし、個人のほか、学校や勉強会をするNPOなどにも利用してもらっている。

○「がん患者のための体と心の緩和ケア

～痛みと悩みをやわらげて自分らしい療養生活を送るために～」

(監修：的場元弘 青森県立中央病院 緩和医療科 部長)

がん患者の体の痛みや心の苦しみを和らげる「緩和ケア」について、病院や相談機関の情報を含めて解説した冊子を作成。ホームページで公開した。

5. チャリティー事業

2020年度は、例年実施している以下のチャリティーイベントは、コロナ禍の影響ですべて中止となった。

(1) NHK番組公開チャリティー

おかあさんといっしょファミリーコンサート（全44公演）
いないいないばあっ！ワンワンわんだーらんど（全30公演）

(2) 事業団企画チャリティー

N響「第9」チャリティーコンサート
第54回NHK福祉大相撲
NHK厚生文化チャリティー展
第53回日本陶芸倶楽部会員チャリティー作品発表展
障害者のための女流義太夫チャリティー演奏会

6. その他の支援事業

(1) 第32回 地域福祉を支援する「わかば基金」

あすの福祉の芽を育てる「わかば基金」は、福祉の分野で地道に活動を続けているグループを支援するために設けられたもので、32回目の今回は、事業団の創立60周年を記念して、例年の予算の2倍の規模で支援した。

前々回（第30回）から設け、全国の激甚災害の被災地から申請を募った「災害復興支援部門」には27のグループから申請があった。

また、「支援金部門」には251グループ、「リサイクルパソコン部門」には98グループから申し込みがあった。

「リサイクルパソコン部門」は、NHKやNHK関連団体から不用になったパソコンを寄贈してもらい、新しいアプリケーションソフトを入れた上で必要としている福祉団体に贈呈するもので、NHKグループの社会貢献活動となっている。

選考委員会を経て、全国44グループに総額2,378万円の支援金、20グループに47台のパソコンを贈った。また、支援総額は、パソコン費用を含め2,556万円。

なお、初回からの贈呈件数は835に上る。

<支援金部門 支援先>*37グループ *支援金総額：1,880万円

北海道苫小牧市	苫小牧市障がい者パソコンボランティア友の会	DAISY再生機器	10万円
北海道函館市	NPO法人はこだての家日吉	点字プリンター	54万円
盛岡市	アルティ・キッズ	動画制作機器一式	42万円
盛岡市	おはなしの森まつぼっくり隊	アンプ、マイク など	23万円
宮城県気仙沼市	けせんぬま森のおさんぽ会	工具、木材、トイレ工事	90万円
埼玉県毛呂山町	NPO法人マイムマイム	床改修費 など	90万円
東京・多摩市	NPO法人麻の葉	プロジェクター	27万円
東京・豊島区	学生支援ハウスようこそ	ハウス修理代 など	38万円
横浜市	icocca ひのみなみ	解体・復旧工事費	90万円
横浜市	認定NPO法人スマイルオブキッズ	ホームページ制作費	30万円
山梨県北斗市	NPO法人あさひ	施設増築費 など	58万円
長野県王滝村	長野県傾聴ボランティア連絡協議会	プロジェクター など	15万円
新潟県燕市	NPO法人あいこうえん翼	車両	90万円
新潟県長岡市	認定NPO法人UNE	小枝裁断機器	46万円

新潟県柏崎市	星くじらのしっぽ	プロジェクター、スマホ など	69万円
静岡県富士市	スマイルベリーファーム	製粉機 など	90万円
岐阜県多治見市	NPO法人在宅支援グループ みんなの手	介護用リフト	83万円
岐阜県多治見市	NPO法人はだし工房共同作業所	ミニ・キッチン など	77万円
岐阜市	NPO法人ハッピー・クローバー	手織り機、ミシン など	47万円
愛知県安城市	ハッピーママライフ	縫製用品 など	72万円
愛知県一宮市	NPO法人響愛学園	ホルン、クラリネット など	80万円
三重県いなべ市	認知症予防ボランティアかのん	アンプ、チューナー など	33万円
奈良市	西大寺北地区自主防災防犯会	担架、車いす	12万円
奈良市	のまはら	草刈り機、食材 など	90万円
和歌山県橋本市	和歌山パソコン要約筆記Friends 9	プロジェクター、筆談用具	16万円
神戸市	NPO法人ガジュマルの船	扇風機、ホットカーペット	10万円
兵庫県三木市	NPO法人そいる	BabyLoco、SRCウォーカー	30万円
兵庫県姫路市	NPO法人出愛いの里福祉会	紙折り機、紙揃機 など	90万円
島根県出雲市	えくぼ	ポータブルPAシステム	29万円
島根県出雲市	かみつお助けマン互助会	刈払機 など	30万円
山口県岩国市	NPO法人とりで	エアコン、洗面所設置費 など	90万円
香川県観音寺市	いいSMILE実行委員会	ドレス、会場費 など	20万円
徳島市	徳島文化福祉ボランティア	紙芝居、人形修理 など	10万円
福岡市	NPO法人アコア	防犯カメラ、書籍 など	12万円
福岡市	NPO法人クックルー・ステップ生活介護事業所クックルーオリーブ	マット、冷蔵庫 など	90万円
北九州市	NPO法人わくわーく	楽器、謝礼 など	72万円
佐賀市	北川副福祉にわか劇団「希望」	プロジェクター	25万円

<災害復興支援部門 支援先>*7グループ *支援金総額：498万円

岩手県宮古市	NPO法人みやこ自立サポートセンター	物品、資材 など	35万円
福島市	NPO法人チームふくしま	搾油機	29万円

福島市	福島大学災害ボランティアセンター 古民家借用、修繕 など	75万円
福島県郡山市	みんないっしょ with us ソーラーシステム、放射能測定器	87万円
岡山市	あらいぐま岡山 写真洗浄関係費	100万円
大分県日田市	NPO法人リエラ 東屋建設費	99万円
熊本県西原村	NPO法人にしはらたんぽぽハウス 什器、材料など	73万円

<リサイクルパソコン部門 支援先>*20グループ *リサイクルパソコン贈呈:47台

盛岡市	NPO法人岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」	3台
水戸市	水戸要約筆記サークル萌	1台
宇都宮市	要約筆記サークル すず	3台
群馬県太田市	太田朗読奉仕会	3台
東京・練馬区	NPO法人たしざん	3台
東京・世田谷区	NPO法人コクア	2台
神奈川県愛川町	愛川芸術就労Bみらいのあいの家設立準備室	2台
滋賀県東近江市	地球ハートビレッジ	3台
大阪府堺市	NPO法人チャレンジ・クラブ	3台
大阪府枚方市	NPO法人枚方市障害者事業協会わお	3台
大阪市	NPO法人フリースクールみなも	3台
大阪府枚方市	朗読ボランティアグループ「コスモス」	2台
神戸市	NPO法人神戸ろうあ協会	3台
神戸市	NPO法人すまみらい	3台
神戸市	ともしび点訳ブレイユ	1台
兵庫県西宮市	NPO法人西宮市身体障害者連合会	2台
兵庫県姫路市	認知症予防教室一輪会	1台
岡山市	岡山PC要約筆記研究会	3台
福岡県古賀市	NPO法人あじさい園	1台
福岡県春日市	NPO法人福岡教育サポート	2台

(2) NHK歳末たすけあい・NHK海外たすけあい

2020年度「NHK歳末たすけあい」「NHK海外たすけあい」を、NHK、中央共同募金会、日本赤十字社と共催で12月1日～25日の間実施した。

「NHK歳末たすけあい」は、共同募金会を通じて、国内の福祉施設やコロナ禍で不安を抱える方など、支援を必要とする方々のために役立てられる。

「NHK海外たすけあい」は、日本赤十字社を通じて、コロナ禍の世界各地で、紛争や自然災害、感染症などに苦しむ人々のために役だてられる。

受付件数・金額（全国集計）

	NHK歳末たすけあい		NHK海外たすけあい	
2020年度	4万2,198件	6億4,406万2,058円	8万6,964件	7億5,038万8,183円

(3) 災害たすけあい

NHK、共同募金会、日本赤十字社とともに、大規模な災害が起こった際に、その都度「災害たすけあい」を実施している。2020年度は、前々年度からの継続を含めて3件実施した。

	期 間	金 額
平成30年7月豪雨岡山県 災害義援金	2018年7月10日 ～2021年6月30日	143億1,931万4,815円 *2021年3月31日現在
平成30年7月広島県豪雨 災害義援金	2018年7月12日 ～2021年6月30日	101億4,952万3,402円 *2021年3月31日現在
令和2年7月島根県豪雨 災害義援金	2020年7月22日 ～2020年9月30日	3,229万6,029円 *2020年11月30日最終

(4) 物品などの寄贈

○福祉車両の寄贈

例年「NHK福祉大相撲」の収益で福祉車両を全国の福祉団体・施設に寄贈してきたが、2020年度は新型コロナウイルス感染状況に鑑み開催を中止した。それに代わって必要としている団体に「NHK厚生文化事業団号」と名付けた福祉車両を下記の施設に寄贈した。

<贈呈先>

社会福祉法人	追分あけぼの会	(北海道安平町)
社会福祉法人	子育て・発達の里	(山梨県甲斐市)
社会福祉法人	ひがし福社会	(岐阜県中津川市)
社会福祉法人	三篠会 障害者支援施設 仁方	(広島市)
社会福祉法人	宮崎県大島振興協会 大島身体障害者通所授産所	(宮崎市)

(5) 催物への招待

例年、視覚障害の人や知的障害のある人を招待しているN響「第9」チャリティーコンサートとNHK福祉大相撲は、コロナの影響でいずれも中止となった。

7. 広報活動

創立60周年事業として事業団の認知度とブランドイメージを高めるために、事業団のロゴ、シンボルマークの刷新、メールマガジン発行、障害者に配慮したホームページのリニューアル、記念誌の発行を行った。

事業団の活動を周知するために事業内容を紹介した印刷物をイベント会場やオンライン・フォーラム参加者などに配布し、福祉活動への理解と協力を求めた。

ホームページやSNSで、催し物の周知や活動報告、福祉ビデオライブラリーのPRなどを発信した。

(1) 事業団創立60周年を機に 認知度とブランドイメージの向上を図る

○新しいロゴ、シンボルマークを作成し、それをもとにホームページや封筒、職員の名刺などのデザインを一新し、ブランドイメージ向上を図った。

○新たにメールマガジンの発行をスタートさせ、「イベントの募集案内」「新着の福祉DVD紹介」「障害者アート紹介」などの情報を定期的に発信してイベント参加やビデオ貸し出しを促し、事業団への理解とファンを増やすことに努めた。
(登録者は、2021年4月末現在で約5,000人)

○ホームページをリニューアル。視覚障害者にも配慮し、音声読み上げソフトに適切に対応するように改修した。

○有識者の提言から福祉の未来を展望する記念誌を作成し、NHK職員、関連団体職員をはじめ、福祉団体や支援団体、イベント出演者に配布し、認知度向上に努めた。

(2) ホームページ、メールマガジンによる広報活動の強化

○事業団の活動をより多くの人に知ってもらい、活用してもらうため、「最近の活動内容」や、「募集事業の案内」、「福祉ビデオライブラリーの新着情報」などをきめ細かく提供するとともに、ビジュアルでわかりやすい画面構成に努めた。

主な掲載内容は、

- ・事業団の「催し物の予定」や「実施事業の報告」
 - ・事業団が制作した冊子の内容。「認知症」や「がん緩和ケア」など
 - ・「NHK障害福祉賞」などの入選作品の紹介
 - ・「わかば基金」で支援した福祉団体の活動をレポートする「わかばなかま」
 - ・「福祉ビデオライブラリー」の目録や予約システム
 - ・寄付について
- ・・・・・・・・など

○福祉DVD「摂食障害 理解と回復のために」「ひとりも取り残さないために～インクルーシブ防災～」の動画の一部や、「認知症とともに生きるまち大賞」受賞団体の活動映像の動画をホームページで配信し、要望に応えた。

(3) 広報物の作成・配布

- NHK厚生文化事業団年報「支えあい 共に生きていくために」を発行して、事業団の福祉活動への理解促進を図った。
- 事業団の業務を紹介した両面チラシを作成して、イベント会場やオンライン・フォーラム参加者などに配布した。

8. 内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底等

事業団はNHKグループの一員であり、社会福祉法に則り、寄付で運営される社会福祉法人であることから、高い説明責任、透明性ある事業運営が強く求められている。引き続き内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底等に努めた。

(1) 内部統制の整備・強化とコンプライアンスの徹底

○外部の専門団体との連携

外部の専門団体との間で顧問契約を結び、適正経理、法務、労務・安全管理、情報セキュリティ等の重点リスクについて逐次助言を得て、客観性や合理性、専門性を担保し業務を進めた。

NHKグループの「統合ネット」に参加して、NHKと連携して情報セキュリティの整備に努めた。財務管理は社会福祉法人会計基準に対応した財務システムにより行った。

○内部監査と会計監査

内部監査はNHKビジネスクリエイト、会計監査はあずさ監査法人の専門チームに委託して行った。

○業務の適正を確保するための体制の評価

NHKグループの仕様に基づき、内部統制について「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」の6つの観点から整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上重要なリスクを抽出したうえで、必要な対応(内部統制)を実施しているか評価した。評価の結果、2021年3月31日時点における事業団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

(2) 「働き方改革」の推進等

「働き方改革」に継続して取り組み、より創造性を発揮できる環境の整備に努めた。毎月の「働き方総点検」で、時間外や勤務休暇取得日数、業務量のバランスなどを把握し、適正な勤務管理に努めた。事業団の必須目標とした勤務休暇7日間の取得を全員が達成した。

コロナウイルス感染症の感染拡大に対処するため様々な感染防止策を講ずるとともに、緊急事態宣言下では試行的に在宅勤務と時差出退勤を認める措置をとった。在宅勤務については、多様な働き方を進めるため、その後、就業規則に明記して制度化した。

(3) 各種研修の実施

NHK放送研修センターが実施する研修や、外部講師を招いて事業団独自で開催した研修などを通して、全役職員でリスクマネジメントの強化に努めた。

(4) 中期経営計画の策定

2021～23年度の中期経営計画を策定し、NHK・NHKグループとの連携強化、インターネットの効果的活用、持続可能で透明性のある組織運営などの基本行動指針を定め、向こう3年間の収支計画を示した。

9. 後援・協賛した事業

毎年、福祉、教育、医療団体などが実施する研修や啓発事業、また美術、スポーツ団体などが福祉目的で開催するチャリティー事業に積極的に協力してきたが、コロナウイルス感染症の影響を受けて2020年度は中止が相次ぎ、本部・支局合わせて60件（昨年度は156件）の事業の後援、協賛にとどまった。

○福祉関連の催し（48件／昨年度は123件）

「自閉症啓発デー2020」「第7回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」
「高校生ボランティア・アワード」「福祉の就職総合フェアSPRING in OSAKA」
などを後援、協賛した。

○チャリティー催し物（12件／昨年度は33件）

「チアリーディング日本選手権大会」「KEIRINグランプリ2020」
「チャリティー全国大陶器市」（10か所）を後援し、その益金から事業団へ寄付をいただいた。

10. 寄付金

当事業団への寄付金には二種類ある。個人や団体からのご寄付である一般寄付金と、当団が主催、後援、協賛したチャリティー事業からのご寄付であるチャリティー寄付金である。

2020年度は、

一般寄付金	196件	1億9,323万4,572円
チャリティー寄付金	31件	3,107万5,734円
寄付金総額	227件	2億2,431万0,306円

となった。

11. 賛助会員・維持会員等

賛助会員は一般法人に広く協力を求め、本年度は1団体5口の新規入会があった。一方で、減額2団体10口、退会9団体12口の申し出もあり、合わせて113団体から1,730万円の支援を受けた。

個人からの継続寄付者を含む維持会員等については、NHKおよびNHK関連団体役職員、NHK旧友会員など5,398人の方々の協力を得て、その額は1,003万円に達した。

〔特別賛助会員〕

- ・三栄製薬
- ・第一生命保険
- ・ノービスハイエストサービス
- ・日立製作所
- ・富士通
- ・みずほ銀行
- ・NHKエンタープライズ

〔賛助会員〕

- ・愛知県農業協同組合中央会
- ・葵設備工事
- ・アットホーム
- ・アフラック
- ・アーチェリープロダクション
- ・アーティストハウスピラミッド
- ・池上通信機
- ・石川近鉄タクシー
- ・岩谷産業
- ・栄光舎
- ・エクサート松崎
- ・荏原冷熱システム
- ・遠藤波津子美容室
- ・岡谷鋼機
- ・オフィスプロペラ
- ・勝亦電機製作所
- ・加藤電気工業所
- ・川崎重工業
- ・川嶋印刷
- ・木下サーカス
- ・近物レックス
- ・近鉄タクシー
- ・グリーン・アート
- ・KDDI
- ・江綿
- ・国際自動車
- ・コメリ
- ・近藤産興
- ・サンセイ
- ・シーズコーポレーション
- ・ジーズ・コーポレーション
- ・ジェイアール東海高島屋
- ・JT S
- ・島精機製作所
- ・小学館
- ・白川プロ
- ・スタービーイング
- ・スマートコンセプト
- ・住友電気工業
- ・住江織物
- ・全国大陶器市振興組合
- ・全国陶器祭り振興会
- ・セントラルスポーツ
- ・ゼンリン
- ・総合システム管理
- ・ダイキン工業
- ・大和自動車交通
- ・大和証券
- ・タカラベルモント
- ・津幡技研工業
- ・ツムラ
- ・帝産キャブ名古屋
- ・帝都自動車交通
- ・電気興業
- ・東芝インフラシステムズ
- ・東新紙業
- ・トヨタ自動車
- ・名古屋三越
- ・西川
- ・日産自動車販売
- ・日本医師会
- ・日本音楽事業者協会
- ・日本音楽著作権協会
- ・日本ガイシ
- ・日本交通
- ・日本たばこ産業
- ・日本電気
- ・ネイチャー
- ・野村證券
- ・バーニングプロダクション
- ・花岡無線電機
- ・バリュープランニング
- ・阪急産業
- ・阪急電鉄
- ・PL東京健康管理センター
- ・日立国際電気
- ・福建社
- ・丸一鋼管
- ・丸徳産業
- ・三井住友信託銀行
- ・三菱UFJ信託銀行

- ・明電舎
- ・森平舞台機構
- ・リンレイ
- ・NHKインターナショナル
- ・NHKエンジニアリングシステム
- ・NHK出版
- ・NHKプロモーション
- ・日本国際放送
- ・放送衛星システム
- ・メディア21
- ・ヨコシネディーアイエー
- ・WOWOW
- ・NHK営業サービス
- ・NHKグローバルメディアサービス
- ・NHKテクノロジーズ
- ・NHK放送研修センター
- ・NHK学園
- ・モリタホールディングス
- ・吉本興業
- ・NHKアート
- ・NHKエデュケーショナル
- ・NHKサービスセンター
- ・NHKビジネスクリエイト
- ・共栄サービス
- ・日本放送協会共済会

(五十音順 2021. 3. 31現在)

12. 役員

(1) 役員体制 (2021年3月31日現在)

理事長	鈴木 賢一	
常務理事	石川 信	
理事 (非常勤)	安齋 尚志	(株式会社NHKエンタープライズ代表取締役社長)
理事 (非常勤)	出田 恵三	(NHK制作局制作主幹)
理事 (非常勤)	上野 一彦	(東京学芸大学名誉教授)
理事 (非常勤)	梶 健一郎	(NHK視聴者総局事業センター長)
理事 (非常勤)	伍藤 忠春	(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会評議員)
理事 (非常勤)	佐々木 桃子	(社会福祉法東京都人手をつなぐ育成会理事長)
理事 (非常勤)	中村 吉夫	(社会福祉法人聴力障害者情報文化センター理事長)
理事 (非常勤)	橋本 正明	(社会福祉法人至誠学舎立川理事長)
監事 (非常勤)	渋谷 篤男	(社会福祉法人中央共同募金会常務理事)
監事 (非常勤)	友田 孝兄	(NHK営業サービス株式会社専務取締役)

2) 理事および監事に支払った報酬等の額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象となる 役員数 (人)
		定額部分	変動部分	
理事 (非常勤役員を除く)	30,396	22,836	7,560	2人
非常勤理事・監事	120	120	0	10人

※NHKおよびNHK関連団体の役職員としての立場を有する非常勤理事3人・非常勤監事1人に対しては、報酬を支払っていない。

※上記以外の非常勤理事5人・非常勤監事1人に対しては、理事会に出席の都度、定額を支払っている。

13. 2020年度末従業員数

13人 [東京：11人、大阪：1人、福岡：1人]

中部支局については、1982年の設立以来、各種の福祉事業を地域に根差して展開してきた。これまで支局が続けてきた活動の成果を踏まえ、今後は本部から東海・北陸地方へ福祉事業を展開することを前提に、2021年3月31日をもって閉所した。